

平成 30 年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

【社会福祉法人みどり会 みどりの森みらい保育園】 広島市西区福島町 2-24-48

【今年度の活動事例】 5歳児 やまめのつかみ取り

日にち：平成 30 年 9 月 6 日（木）

場 所：広島市安佐北区安佐町大字小河内

目 的：魚に実際に触れる・見る・食べるの経験を通し、魚に興味を持ち、
食への関心に繋げる。

飯盒炊飯を経験し、生きる力を身に付ける。

参加人数：園児 16 名（欠席 1 名）

引率職員 5 名（理事長・園長・保育士 3 名）

社会福祉法人みどり会は「乳幼児期は子どもの身体を作る大事な時期」と捉え、給食の内容は「薄味で和食中心」という特徴があります。これは、現代の子どもたちの食文化を見つめなおし、偏食する子どもにならないように味覚を広げ、何でもバランスよく食べられるようにしていきたいという目的があります。日々の給食には「噛める食材」を多く取り入れています。その中で、保育者が日々悩んでいることに「子どもたちの魚嫌いをどう克服するか。」ということがありました。現代は魚を調理して提供する家庭も少なくなり、魚の切り身しか見たことのない子どもが増えている現状です。そこで、魚を捕る⇒下処理（自分で内臓を処理）⇒焼く⇒食べるまでの一連の流れを子どもたちと共に体験し、「本物の魚に触れさせたい」と考え、やまめのつかみどりを計画いたしました。



行事計画案

	園長	副園長	主任	担当
行事名：魚のつかみどり				場所：株式会社宮本養魚場E C O360 広島市安佐北区安佐町大字小河内 374
実施日：平成 30 年 9 月 6 日（木） ※雨天の場合 延期				対象：ひかり組（17名）
ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・魚を実際に触れる・見る・食べるの経験を通して、魚に興味を持ち、食への関心に繋げる。 ・飯盒炊飯などの経験をし、生きる力を身に付ける。 				
時 間	内 容			準備・環境整備・配慮
8：50	保育園集合			(引率)
9：00	保育園出発 (園バス)			・森脇、竹本、園長、長谷川 (準備物)
10：00	宮本養魚場 到着 魚のつかみ取りを楽しむ (グループごとに行う)			・散歩バック、携帯、笛、水、デジカメ、 救急用品、緊急連絡簿、飯盒、箸 着替え(3着セット) (配慮)
10：45	クッキングを楽しむ ・魚をさばく ・飯盒炊飯 (グループごとに行う)			・事前に下見をしておき、遊ぶ場所、食 べる場所などを検討し、安全に配慮し、 迎えられるようにする。 ・事前に子ども達に魚のつかみどりの話 をしておき、期待を持って当日を迎えら れるようにする。
11：30	トンボ採り、水遊び、散歩を楽しむ ・クッキングが終わったグループから 遊ぶ。範囲が広がらないようにし、 2グループが終わり次第、トンボ採りと 水遊びに分かれて遊ぶ。 ・魚が焼ける様子なども見に行く。			・水や火などの危険がないように職員で 連携をとっていく。 ・子ども達の気持ちを受け止めながら、 保育士も一緒になって楽しめるように する。 ・人数確認をこまめに行い、職員で連携 をとり、スムーズに移動出来るように する。
12：30	ご飯を食べる			・事前にどんな感触か、どうやってつか まえるかなどを話し合い、興味を持てる ようにする。
13：30	帰りの用意をする			・子ども達が満足感や、充実感を味わい、 遊びきったと感じられるように配慮す る。
14：00	宮本養魚場 到着 ・バスの中で午睡ができるようにする			
15：00	保育園到着			

広島市安佐北区小河内にある養魚場へ園バスで約1時間かけて到着し、子どもたちは水中にいる30匹のやまめを捕まえようと意気揚々とプールに入っていました。最初は水に手をつけたまま追いかけるだけで、逃げ足の速い「やまめ」はどうやっても捕まえることができません。しかし、しばらくの間やまめを追い続けていると冷たい水にも慣れ、最後には全身で水中に潜り捕まえようとしたり、魚をプールの端に追いやるといったコツをつかみ始めました。

「やった、とれた！」元気な声が聞こえ始めると、次々に「つかまえた！」という声が増え始めました。魚を触ることを嫌がっていた子どもも「つかめた！」という体験で苦手を克服し、嬉しそうな表情をしていました。魚の内臓を取る作業も嫌がる子どもはおらず「割り箸を差し、ねじって引く」という調理方法をマスターし、自分で捕る・さばくを体験することができました。この体験により、泳いでいる魚の感触を知り、日頃食べている魚にも命があることを伝え、生命の尊さを気付くきっかけになったと思います。最後はやまめを炭焼きし美味しくいただきました。魚を苦手としていた子どもも「自分で捕った魚はおいしい！」とよく食べていました。こうした自然の中で得た経験は子どもたちの豊かな感動体験となり、好奇心や探究心を引き出し、子どもたちの「意欲」を育てる大切な活動であると感じています。

